

令和4年度 算数 授業改善推進プラン

大田区学習効果測定 結果の分析

○各学年の結果については、次のようになった。

- 4年生…校内平均正答率が目標値・区平均・全国平均を下回った。基礎・活用において目標値・区平均・全国平均を下回る。問題内容別に見ると、「大きい数・小数・分数」「たし算・ひき算」については目標値に達しているが、「かけ算」「わり算」「長さ・重さ」などのそれ以外の内容については、目標値に達していない。
- 5年生…校内平均正答率が目標値・区平均・全国平均を下回った。基礎において目標値・区平均・全国平均を下回る。活用においては、目標値には達していたが、区平均・全国平均は下回る。問題内容別に見ると、「面積」については目標値に達しているが、それ以外の内容については、目標値に達していない。
- 6年生…校内平均正答率が目標値・区平均・全国平均を下回った。基礎・活用において目標値・区平均・全国平均を下回る。問題内容別に見ると、「分数と小数」「面積」「立体と体積」「割合」「円グラフや帯グラフ・平均」について特に大きく目標値を下回っている。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
どの学年も正答率は目標値を下回っている。 5年生では、2けた÷1けた計算をする問題の正答率が低い結果となった。6年生では、分数を小数に直す問題や平行四辺形の面積を求める問題で正答率が低い結果となり課題が見られた。	どの学年も正答率は目標値を下回っている。 4年生は、文章問題を解くために立式した2けた÷1けた＝1けた（余りあり）の式から、余りの処理をして正しい答えを求める問題で正答率が低い結果となり課題が見られた。	どの学年も正答率は目標値を下回っている。 4年生は、身近にあるものの重さを推察する問題の正答率が低い結果となった。6年生では、与えられた表のデータから割合を求める問題で正答率が低い結果となり課題が見られた。

課題〈今回の調査結果から〉

- 知識・技能に対してはどの学年も目標値を下回っており、基礎・基本をきちんと定着していけるように、東京ベーシックドリルを活用して児童の学習の定着状況を把握していくとともに、児童の習熟の程度に応じて、補充学習・発展学習等に取り組みせていく必要があると考える。
- 4年生は、「かけ算」「わり算」「長さ・重さ」5年生は、「角の大きさ」「小数」「変わり方調べ」、6年生は、「分数と小数」「面積」「立体と体積」「割合」など、各学年で苦手な傾向が異なっているので、焦点を絞って、補充学習を行い、練習問題にもくり返し取り組んでいく必要がある。
- 授業で学習しているときはよく理解できているように教師も児童も感じる場面も多いが、その単元の学習後、しばらくすると解き方や考え方を忘れてしまうことがある。定着を図るために、タブレットのドリル学習を活用して習熟を図ったり、日頃の家庭学習で学習を振り返ったりする機会を設ける。
- 自分の考えをノートに書いたり、発表したりして表現することについては積極的でない児童も見られ課題があると考えられる。調査結果からも記述式の問題においては無回答の児童が多いものも見られ、基礎・基本の定着とともに、主体的に取り組む態度を育てていくことも課題となる。教材の工夫